

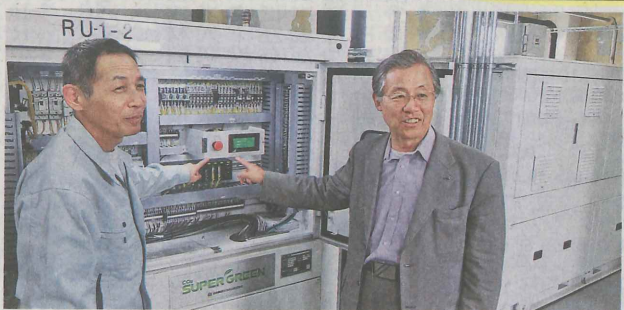
CO₂冷媒冷凍機を導入

浜松委託倉庫 温暖化防止へ配慮

浜松委託倉庫（浜松市中区）は、冷媒に二酸化炭素（CO₂）のみを使った新しい冷凍機を浜松市南区の同社米津コールドセンターに導入した。冷凍倉庫業界では代替フロンを使用する冷

凍機がまだ主流だが、地球温暖化の防止に貢献できる機種を選んだ。同社によると、東海地方では業界初の導入。
代替フロンはオゾン層を破壊する特定フロンの代用

冷媒に二酸化炭素を使った新しい冷凍機について説明する浜松委託倉庫の鈴木健一社長（右）＝浜松市南区で



品だが、温暖化効果がCO₂の一万倍を超える種類もあり、政府が生産や消費量の規制強化を進めている。
同社の鈴木健一社長は五年ほど前から、設備更新に合わせて脱フロンを計画。

冷媒にアンモニアとCO₂を併用する冷凍機などを検討したが、広いスペースや安全設備が必要なことがネックだった。欧州の雑誌で、ドイツではCO₂のみを冷媒に使う冷凍機が主流になっていることを知り、ドイツ製のCO₂冷媒冷凍機を日本の気候に合わせて改良した日本熱源システム（東京）から購入した。

設置費用などを含めた投資額は約一億円で、国から一部補助を受けた。鈴木社長は「CO₂は不活性で安定している上、機械の部品数が少ないため故障リスクが抑えられる。消費電力も35%減った」と利点を強調。
「まだ機械が高価で、補助金も狭き門になっている。温暖化防止のために、政府がCO₂冷媒機器の研究開発に補助することも有効だ」と話した。（山田晃史）